

令和7年度 慈丘園共同生活事業所 地域連携推進会議

日時：令和7年12月11日（木）

午後2時～午後5時半

場所：総合施設かるむの里体育館

- 1 所長挨拶
- 2 事業所職員及び構成員の紹介
- 3 協議
 - (1) 資料説明
 - (2) ご意見・質問等
- 4 閉会

令和7年度（事業所名）地域連携推進会議 出席者

<構成員>

	所属・職名等
1	グループホームゆず 利用者
2	グループホームたいよう 利用者
3	グループホームみんと 利用者家族
4	地区民生委員
5	福祉関係者

<事業所>

1	慈丘園共同生活事業所 所長
2	慈丘園共同生活事業所 サービス管理責任者

第1回慈丘園共同生活事業所地域連携推進会議 会議録

日 時	令和7年12月11日(木) 14:00~15:30
場 所	かるむの里体育館
参 加 者	別紙名簿参照
<p>1 所長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 慈丘園共同生活事業所地域連携推進会議設置要綱についての説明とあわせて挨拶をする。 <p>2 事業所職員及び構成員の紹介</p> <p>3 協議</p> <p>(1) 資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 施設の概要・利用者の障害状況について(所長) 令和7年度業務概要を使用し、事業所の概要、利用定員、障害支援区分、年齢構成、通所先状況等について説明した。 ② 利用者の日常生活や行事、社会参加について(サービス管理責任者) 令和7年度業務概要・別紙資料を使用し、日課、週課の説明や支援を行う援助員、世話人の支援体制について説明した。 行事、社会参加については、事業所開設当時のように地域の夏祭りに参加する機会は高齢化・重度化があり減ってきている。大山犬祭りの行列見学や、選挙への投票のための送迎などでしか全体的な外出は行えていない。その代わりに、ホームごとに個別での外出支援などを行い地域のお店の利用を行っている。 ③ BCP(業務継続計画)の策定状況について(サービス管理責任者) 令和7年度業務概要・別紙資料を使用し、昨年度より計画策定が必要となり、災害・感染症に対しての業務計画があることを説明した。 昨年7月の豪雨災害時には、実際に全ホームの利用者が避難を行っており、その時の避難状況やその後の訓練・研修についても説明した。 ④ 虐待防止・事故報告・ヒヤリハットの報告 令和7年度業務概要・別紙資料を使用して説明した。 	

※入居者代表から、避難時の様子やホームで過ごしていることについても話してもらった。

- ・避難時はいつも過ごしている場所と違って眠れなかったと話があった。
- ・ホームでの生活は楽しい。前は洗濯物たたみの仕事を行っていた等の話があった。

(2) ご意見・質問等

利用者家族

- ・ヘルメットなどもあって、防災の対策をしっかりとっていてすごいと思った。利用者の方と会って話す機会もあったが、安心感のある表情や幸せそうな顔に見えた。自分の子だけでなく、どなたも過ごして心配ないと思った。

福祉関係者

- ・自身の事業所と比較してみる事が多かったが、元あった建物ではなく、グループホームとして建てたものなので、廊下などが平らであることが良いと思い、生活しやすそうに見えた。食事や通院についても職員が良くしているのがわかったので、参考にさせていただきたい。現在グループホームを新設中なので、今後お互いに勉強させていただければと思う。
ヒヤリハットについては、なかなか数が出てこない。

利用者家族

- ・他の事業所ではヒヤリハットが多く出ている。職員が言いやすい雰囲気であるからかなと思った。雰囲気が大事なのではないか。

民生委員

- ・担当区域を週一回聞き取りに歩いている時に気になっていたが、グループホームみんと・たいようとは知らなかった。どんな建物かは気になっていて、見学する機会があることでグループホームだということが初めてわかった。施設が新しく、利用者も困っていることはない

話していた。スプリンクラーや防災グッズなど、防災に関してもしっかりしていた。一人暮らしより利用者の負担が少ないと感じ、食事も健康的なものを食べている。

世話人さんがやることがたくさんあって大変だと思った。利用者さんができることは、協力して行っていると思った。

利用者家族

- ・療養食をずっと利用しているのか。
サービス管理責任者…様々な検討をしたうえで今の形になっている。
- ・すごくいいと思う。ここに入居してからスマートになって、健康診断も入居後何も引っかかかっていない。病気もなく過ごせている。

福祉関係者

- ・自分のところのグループホームも、自家調理だと買ってきたものをすべて使うので、量が増えてしまっていた。配食を利用してから、ごみが減ったり、職員の買い物やレシート管理などの手間もなくなった。利用者の健康状態も良くなってきた。必要な人はお菓子など自己負担で対応している。

ホームでも体重が著しく重い方は減っており、巡回の看護師が食事も見ながらアドバイスしている。

利用者も前のホームでは食事前にお菓子を食べてしまっていて、食事は残していた。今はホームのご飯をしっかり食べており、ホームのご飯はおいしいとの意見もある。利用者に合わせて食事形態を決めて提供している。

所長

- ・ヒヤリハットを多く出してもらいたい。利用者のヒヤリだけでなく、職員のヒヤリも出すことで、事業所・業務の改善を行い、事故報告に至らないようにするためのメモ程度でいいので出してほしいと伝えている。勤続年数が長くなり、これまでと変わらないことでヒヤリと感じにくいこともあるように思う。

サービス管理責任者

- ・地元の資源が利用できておらず、近隣の方との交流がない。ホームの存在が地域で知られていないことについて、ご意見を伺いたい。

民生委員

- ・グループホームだけでなく、かるむの里の施設自体あまり知られていない。今年見学させていただいてどういう施設かわかったので、コミュニティセンター職員や自治体、社協等の見学を受け入れてはどうか。利用者の方が地域に入るのは大変だが、地域の人を知ることも大切なのではないか。

利用者家族

- ・今回、民生委員の方なども参加していただいて、すごくいい機会だと思った。大山地域の中で生活しているので、職員だけでなく地域の方からも協力してもらえればすごくいいと思った。

民生委員

- ・お互いに情報をもらえればと思う。一人暮らしの男性だと食事の情報を得ることも大変で、療養食を利用した方もいる。見守りをしてもらって、民生委員への連絡をもらったこともあった。

所長

- ・コロナ禍もあって、地域との関係性が薄くなってしまっていると感じている。かるむの里の視察は受け入れているので、いつでもお声がけいただければと思う。

今後は地域との関係性を強めていければと思います。引き続きご協力をお願いします。

4 閉会